

# 政策ニーズに対応したイモ・資源作物品種の開発

## 【研究計画概要】

研究期間：令和7年度～令和9年度

研究部門：農研機構・九州沖縄農業研究センター、北海道農業研究センター、中日本農業研究センター  
共同研究機関・協力機関：農研機構・種苗管理センター、国際農林水産業研究センター

道総研北見農業試験場、道総研上川農業試験場、茨城県農業総合センター

千葉県農林総合研究センター、長崎県農林技術開発センター

宮崎県総合農業試験場、鹿児島県農業開発総合センター

沖縄県農業研究センター、新潟薬科大学、北海道糖業（株）

日本甜菜製糖（株）、ホクレン、北海道農産協会、霧島酒造（株）

全国蕎麦製粉協同組合、阿蘇波野そばの里生産協議会、油屋、花散里、日晃

## 1. 研究背景・目的

我が国のイモ・資源作物生産では、気候変動の影響等を受け、高温によるイモの内部空洞等の生理障害、病害による葉枯れ症状や根部の腐敗発生、ソバでは高温不稔や刈遅れでの脱粒等による生産性低下が問題となっている。また、農業生産者人口の減少等に対応するためには省力化が必要であり、テンサイでは直播適性、サトウキビでは株出し適性を有する品種が求められている。

そこで本研究では、高温条件下でも品質や収量が安定して優れ、病害抵抗性を備え、省力化栽培への適性を有するイモ・資源作物の品種を開発することを目的とする。



カンショの茎根腐  
細菌病による腐敗



サトウキビの  
黒穂病

## 2. 研究内容

- 1) 腐敗症状等の被害に対応した病害抵抗性及び高温耐性カンショ品種候補系統の開発
- 2) 高温下でも品質の優れた安定多収バレイシヨの品種候補系統の開発
- 3) 黒穂病に抵抗性を持ち、株出し適性に優れたサトウキビ品種候補系統の開発
- 4) 直播適性が高く、高温下で根中糖分が低下しにくい耐病性テンサイ品種候補系統の開発
- 5) 高温下での作期移動に対応できる高品質安定多収ソバ品種候補系統の開発

有望系統の選抜に当たっては、公設試や実需者と連携し特性評価を行う。また、育成された有望系統は公設試、民間等と連携して現地試験を行い、品種登録を行い普及を進める。



生理障害の少ない  
バレイシヨ（左）



難脱粒性ソバ（右）



褐斑病が少ないテンサイ（右）  
課題解決に有望な品種候補系統

## 3. 達成目標

気候変動条件下においても品質、病害抵抗性に優れ、国内安定供給を実現する以下の品種を開発する。

- 1) カンショでは、土壌病害による塊茎腐敗の少ない腐敗耐性の2系統（原料用1、青果・加工用1）、高温による生理障害が少ない青果・加工用高温耐性の1系統を開発。
  - 2) バレイシヨでは、高温による生理障害が少ない青果・業務加工用の1系統を開発。
  - 3) サトウキビでは、黒穂病とサビ病に強く、株出し能力も高い2品種を開発。
  - 4) テンサイでは、褐斑病と黒根病への抵抗性に優れ、直播栽培でも多収な1系統を開発。
  - 5) ソバでは、北海道から九州にかけて、播種時期の前倒しを可能にする3系統を開発。
- その他各作物で既に開発済の品種については、その早期普及を進める。